

令和4年2月14日

センサーハンドルに関する質問への回答

(公社)日本カーリング協会

複数のメディアからカーリング競技に用いられる電子ホッグライン違反検知システム（センサーハンドル）に関する質問が寄せられていますので、回答いたします。

1. 目的

電子的にホッグライン違反を検知する目的で導入されています。氷面に埋め込まれた磁石上をストーンの中心が通過する時点で、ハンドルの柄を介して電流が流れるか否かで違反を検知します。詳細は以下のホームページに解説されています。

<https://www.eyeonthehog.com/>

※) ホッグライン違反とは、投球側のハックに近い方のホッグラインにストーンが達する前にストーンを手から離し投球を完了しなくてはならない競技規則に違反することです。

2. 歴史

2003年のコンチネンタルカップで初めて導入されました。冬季オリンピックでは2006年トリノ大会から使用されています。

3. 日本国内での使用例

国内では、日本カーリング選手権、日本ミックスダブルスカーリング選手権、日本ジュニアカーリング選手権で使用しています。

4. メーカー

海外（カナダ）でのみ生産されています。国内で生産している会社はありません。

5. 誤作動の原因とその対応

内蔵している電池の電圧降下、回路の接触不良が考えられます。正しく動作しない場合には審判員がホッグラインの延長線上に立ち、目視で違反を検知します。

<本件に関する問い合わせ先>

(公社)日本カーリング協会広報担当

media@curling.or.jp